







- ・ 今回の共同主催者：
産業技術総合研究所ネイチャーポジティブ技術実装研究センター；技術実装とは？
- ・ 技術的合理性と社会的正当性 TRL（技術の成熟度）とARL（採用成熟度）
- ・ 何を重視するか：環境負荷（CO2や絶分量）と望ましき（選考度）のトレードオフ
- ・ 発災後15年の経験：専門分野を超えた幅広い論点
- ・ 世代間の公平性、世代内の公平性（受益者と受苦者）、地域・社会の受容性（深掘りすべきこと：例：納得すべき「地域」「社会」とはどこからどこまで？）
- ・ 学術・科学・技術は過去から蓄積された貴重な資産。それを活用しながら、未来を描くには英知（叡智）の結集が必要（AIではなく人間の英知ならではできないこと）「正しい知識」EBPM（科学的根拠に基づく政策決定）、熟慮型民主主義
- ・ 未来への責任：継承、伝承すべきこと、過去にとらわれ過ぎず未来を描くこと（2045年という年限、2011年3月以降に生まれた世代が中心となる将来世代）
- ・ 誰がどのような未来を描くのか：過去の決定の「無謬性」と「社会的合理性」（その時点で合理的・正当であった過去の決定と、時間の経過の中での正当性）